



TITLE:

山室信一教授 略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

山室信一教授 略歴・著作目録. 人文學報 2018, 112: 145-152

ISSUE DATE:

2018-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/235922>

RIGHT:

『人文学報』第112号（2018年6月）
（京都大学人文科学研究所）

山室信一教授 略歴・著作目録

略 歴

1970年 3月 熊本県立熊本高等学校卒業
1975年 3月 東京大学法学部政治学科卒業
1975年 4月 衆議院法制局参事
1978年 4月 東京大学社会科学研究所助手
1983年 4月 東北大学文学部附属日本文化研究施設講師
1985年 10月 同上 助教授
1986年 4月 京都大学人文科学研究所助教授
1998年 5月 同上 教授
2003年 3月 京都大学・博士（法学）取得
2017年 3月 京都大学人文科学研究所 退職

賞 罰 等

1983年 論文「歴史における進歩と保守」で長谷川如是閑賞
1984年 『法制官僚の時代——国家の設計と知の歷程』で毎日出版文化賞
1993年 『キメラ——満洲国の肖像』で吉野作造賞
2002年 『思想課題としてのアジア——基軸・連鎖・投企』でアジア太平洋賞特別賞
2007年 『憲法9条の思想水脈』で司馬遼太郎賞
2009年秋 紫綬褒章・受章

主要業績

単 著

- ・『法制官僚の時代——国家の設計と知の歷程』木鐸社，1984
- ・『近代日本の知と政治——井上毅から大衆演芸まで』木鐸社，1985
- ・『キメラ——満洲国の肖像』中央公論社，1993→『増補版・キメラ——満洲国の肖像』中央公論新社，2004
- ・『思想課題としてのアジア——基軸・連鎖・投企』岩波書店，2001
- ・『近代日本の東北亜区域秩序構想』中央研究院東北亜区域研究：台北，2001
- ・『ユーラシアの岸辺から——同時代としてのアジアへ』岩波書店，2003
- ・『日露戦争の世紀——連鎖視点から見る日本と世界』岩波書店，2005
- ・『憲法9条の思想水脈』朝日新聞出版，2007
- ・『複合戦争と総力戦の断層——日本にとっての第一次世界大戦』人文書院，2010
- ・『사상과제로서의 아시아, 그 이후（思想課題としてのアジア，その後）』ソウル：J & C，2012

- ・『アジアの思想史脈——空間思想学の試み』（近現代アジアをめぐる思想連鎖）人文書院，2017
- ・『アジアびとの風姿——環地方学の試み』（近現代アジアをめぐる思想連鎖）人文書院，2017

海外刊行翻訳書

- ・任城模・編訳『여럿이며 하나인 아시아（多にして一のアジア）』ソウル：チャンギ出版，2003
- ・*Manchuria Under Japanese Dominion; Encounters with Asia*, Translated by Joshua A. Fogel, Pennsylvania University Press, 2006
- ・尹大石訳『키메라 만주국의 초상（キメラ・満洲国の肖像）』ソウル：スミョン出版，2009
- ・鄭仁貞訳『리일전쟁의 세기：연쇄시점으로 보는 일본과 세계（日露戦争の世紀——連鎖視点から見る日本と世界）』翰林新書 95, ソウル：小花，2010
- ・朴東誠訳『헌법 9 조의 사상수맥（憲法 9 条の思想水脈）』ソウル：東北亜歴史財団，2010
- ・徐泓馨・林琪禎・沈玉慧・黃耀進訳『滿洲國의 實相與幻象』台北：八旗文化，2016
- ・許仁碩訳『憲法九條——非戰思想的水脈與脆弱的和平』台北：八旗文化，2017
- ・한철호, 이규태, 심재욱訳『동아시아 근현대통사：화해와 협력을 위한 역사인식』（和田春樹・山室信一ほか著『東アジア近現代通史・上下』）ソウル：책과함께，2017

編著・校注書

- ・『明治期學術・言論雜誌集成』（マイクロフィルム版）ナダ書房，1987
- ・『明治期社会科学翻譯書集成』（マイクロフィルム版）ナダ書房，1988
- ・『學問と知識人』（松本三之介と共編・校注・解説）加藤周一ほか編『日本近代思想大系；10』，岩波書店，1988
- ・『言論とメディア』（松本三之介と共編・校注・解説）加藤周一ほか編『日本近代思想大系；11』，岩波書店，1990
- ・『日本・中国・朝鮮の相互認識と誤解の表象』『京都大学人文科学研究所共同研究資料 叢刊』第 1 号，1998
- ・『中江丑吉文庫目録』『東洋学文献センター叢刊』第 8 冊，1999
- ・『明六雜誌』上卷（中野目徹と共編・校注）岩波書店，1999
- ・『明六雜誌』中卷（中野目徹と共編・校注）岩波書店，2008
- ・『明六雜誌』下卷（中野目徹と共編・校注）岩波書店，2009

講座編集/共編書

- ・『近代日本における東アジア問題』（古屋哲夫と共編）吉川弘文館，2001
- ・『岩波講座・アジア新世紀』全 8 卷（青木保・山室信一ほか編）岩波書店，2002
- ・『岩波講座・「帝国」日本の学知』全 8 卷（田中耕司・山室信一ほか編）岩波書店，2006
- ・『岩波講座・東アジア近現代通史』全 10 卷・別卷 1（和田春樹・山室信一ほか編）岩波書店，2010～2011
- ・『現代の起点 第一次世界大戦』全 4 卷，（岡田暁生・小関隆・藤原辰史と共編）岩波書店，2014
- ・『東アジア近現代通史・上下（岩波現代全書 43・44）』（和田春樹・山室信一ほか著，岩波書店，2014

主要論文

- ・「「実学」觀の政治的位相」『社會科學研究』31 卷 5 号，1980

- ・「国家の制度化と法制官^{レジスト}僚の政策嚮導——明治前期における法による支配と井上毅」『社会科学研究』33巻2号, 1981
- ・「模範国・準拠理論の選択と知の制度化」1～2『社会科学研究』34巻1号 & 34巻3号, 1982
- ・『政府・国家・民族』（岡田与好・樋口陽一との鼎談）木鐸社, 1983
- ・「官報の来し方, 行末」『法の苑』1983年秋号
- ・「歴史の中の政治学」『社会科学の方法』16巻11・12号, 1983
- ・「近代日本における国民国家形成の諸相」『法制史研究』34号, 1984
- ・「知識循環のメディアと場」『日本文化研究所研究報告』20号, 1984
- ・「『風俗営業』と政治社会史」『創文』253号, 1985
- ・「どの国に学ぶか」高村直助編『和魂洋才の日々』ぎょうせい, 1986
- ・「歴史における保守と進歩——文明と普通という機軸から」『中央評論』176号, 1989
- ・「社会科学の継受と東アジアの学」「近代の日本文化研究と東アジア」『日本文化研究所研究報告（シンポジウム「日本文化と東アジア」特集号）』1988
- ・「日本学問の持続と転回」『学問と知識人』加藤周一・丸山眞男ほか編『日本近代思想大系：10』, 岩波書店, 1988
- ・「最後の「満洲国」ブームを読む」『中央公論』104巻6号, 1989
- ・「国民国家形成期の言論とメディア」『言論とメディア』（加藤周一・丸山眞男ほか編『日本近代思想大系：11』, 岩波書店, 1990
- ・「明治議会制への道」『ジュリスト』955号, 1990
- ・「国民国家・日本の発現——ナショナリティの立論構成をめぐる」『人文學報』67号, 1990
- ・「『満洲国』の法と政治——序説」『人文學報』68号, 1991
- ・「政治的なものの断層」内山秀夫編『政治的なものの今』三嶺書房, 1991
- ・「知の回廊——近代世界における思想連鎖の一前提」『近代日本の意味を問う』溝部英章ほか著, 木鐸社, 1992
- ・「箕作麟祥と河津祐之——ふたりの初代校長」法政大学大学史資料委員会編『法律学の夜明けと法政大学』法政大学, 1992
- ・「法令全書と法規分類大全」「太政官日誌と官報」岩波書店編集部編『近代史料解説・総目次・索引』岩波書店, 1992
- ・「思想連鎖の回路とその逆説——近代日中関係史の一側面」『東瀛求索』5号, 1993
- ・「明治国家の制度と理念」『岩波講座日本通史』17巻（近代2）, 岩波書店, 1994
- ・「ボストンの四季と文化施設」『創造する市民』41号, 1994
- ・「アジア認識の基軸」古屋哲夫編『近代日本のアジア認識』京都大学人文科学研究所, 1994
- ・「石原莞爾」『思想の科学』509号, 1994
- ・「北帰行——あるいは帰郷の痛みについて」『中央公論・文芸特集』11巻4号, 1994
- ・「清末知識人の西洋学習と日本学習——政治的変革と学問構成の転回」源了圓ほか編『中日文化交流史大系・3——思想巻』大修館書店, 1995
- ・「『満洲国』統治過程論」山本有造編『『満洲国』の研究』緑蔭書房, 1995
- ・「ラスト・エンペラーの悲劇——溥儀」『This is 読売』65号, 1995
- ・「住宅・土地をめぐる法政思想の基底——欧米・日本・中国を事例として」『住宅・土地問題研究論文集』20集, 1995
- ・「日本の国民国家形成とその思想連鎖」『日本史研究』403号, 1996

- ・「清末知識分子的東西学観」厳紹盪ほか編『中日文化交流史大系・3——思想卷』浙江人民出版社，1996
- ・「満州国の思想宣伝メディア」『季刊民族学』77号，1996
- ・「近代日本における統治と文化」『国際交流』19巻2号，1997
- ・「民族協和の幻像——満洲帝国の逆説」山内昌之ほか編『帝国とは何か』岩波書店，1997
- ・「政治社会における倫理——忘却と未到の間で」鶴見俊輔ほか編『倫理と道徳（現代日本文化論：9）』岩波書店，1997
- ・『中国近代の政治学・法律学の形成と明治日本の法政理論および政治体制の関連』科研費報告書，1997
- ・「祭りの記憶」『季刊アステイオン』46号，1997
- ・「多にして一の秩序原理と日本の選択」青木保ほか編『「アジア的価値」とは何か』TBSブリタニカ，1998
- ・「法政思想史の世界」長尾龍一ほか編『憲法史の面白さ（日本憲法史叢書：2）』信山社出版，1998
- ・「日本外交とアジア主義の交錯」『特集 日本外交におけるアジア主義（年報政治学・1998）』岩波書店，1998
- ・「植民帝国・日本の構成と満洲国——統治様式の遷移と統治人材の周流」P. ドウス他編『帝国という幻想』青木書店，1998
- ・「井上毅の国際認識と外政への寄与」『国学院大学日本文化研究所紀要』84号，1999
- ・「国民国家形成のトリアードと東アジア世界」古屋哲夫編『近代日本における東アジア問題』吉川弘文館，2001
- ・「近代東アジア世界の形成と思想連鎖」『東洋史苑』57号，2001
- ・Form and Function of the Meiji State in Modern East Asia, *Zinbun*, No. 34-1, 2001
- ・「帝国と民族」『越境と難民の世紀（20世紀の定義：4）』岩波書店，2001
- ・「アジアに日本はどう向きあうべきか」『環』9号，2002
- ・「歴史の読み方・書き方」『アジアの歴史認識と「信」』東京大学教養部，2002
- ・「満洲・満洲国をいかに捉えるべきか」『環』10号，2002
- ・「走世界・中国における政治空間の重層化——日本からの視点」『現代中国研究』11号，2002
- ・「アイデンティティーズのアイデンティティ」*New Paradigm*, No. 33, 2002
- ・「空間アジアをめぐる認識の拡張と変容」青木保・山室信一ほか編『アジア新世紀・第1巻——空間』岩波書店，2002
- ・「未来への回憶——他者認識と価値創出への視点」『国際文化会館会報』37号，2003
- ・「『国民帝国』論の射程」山本有造編『帝国の研究——原理・類型・関係——』名古屋大学出版会，2003
- ・「政治小説における思想空間」『新日本古典文学大系明治編』月報・13，2003
- ・『国民帝国としての近代日本国家の統治システムの展開とその法政理論に関する総合的分析』科研費報告書，2004
- ・「キリング・フィールドからバックス・アシアーナへ」青木保・山室信一ほか編『アジア新世紀・第8巻——構想』岩波書店，2003
- ・「戦後日本の中国認識基軸的転移」徐静波・胡令遠編『戦後日本の主要社会思潮与中日関係』上海财经大学出版社，2004
- ・「明治維新とアジアの変革」井上勲編『開国と幕末の動乱』吉川弘文館，2004

- ・「面向未来的回憶」中国社会科学研究会編『中国与日本の他者認識』社会科学文献出版社, 2004
- ・「日本にとってのアジア——「満洲国」とアメリカの狭間で」『週刊朝日百科・日本の歴史・現代5 アメリカ』, 2004
- ・『いま問われる日露戦争』読売ぶっくれっと・36号, 2004
- ・「思想連鎖から見た日露戦争」『中央公論』1441号, 2004
- ・「アジアの平和——その思想的基底」『ノモス』15号, 2004
- ・「文化相渉理論の形成をめざして」『人文學報』91号, 2004
- ・「文化相渉活動としての軍事調査と植民地経営」『人文學報』91号, 2004
- ・「東アジア共同体への道——ノンヘゲモニーの協調体制を」『AIR21』174号, 2004
- ・「東アジアにおける日本近代法」『日本法の国際的文脈』早稲田大学比較法研究所叢書・32号, 2005
- ・「明治儒学的存在形態及其意義」劉岳兵編『明治儒学と近代日本』上海戸籍出版社, 2005
- ・「空間認識の視角と空間の生産」『空間形成と世界認識・岩波講座「帝国」日本の学知・第8巻』岩波書店, 2006
- ・「井上毅の国際認識と外政への寄与」國學院大學日本文化研究所編『井上毅と梧陰文庫』汲古書院, 2006
- ・「東アジアの流動性とつながり——思想連鎖と文化連関の視点から」国分良成編『世界のなかの東アジア』慶應義塾大学出版会, 2006
- ・「出版・検閲の態様とその変遷——日本から満洲国へ」東京大学東洋文化研究所『東洋文化』86号, 2006
- ・「アイデンティティの重層と背反——その彼方に」法政大学国際日本学研究所『東アジア共生モデルの構築と異文化研究』2006
- ・「宮崎滔天『三十三年之夢』」『文字』7号, 2006
- ・「満洲領有計画と石原莞爾の世界最終戦争論」「リットン調査団と国際連盟」「満洲国の統治機構」『満洲帝国』学習研究社, 2006
- ・「東アジアはいかに生まれ、どう創られるのか」『東アジアへの視点』国際東アジア研究センター, 17巻2号, 2006
- ・「20世紀における国際環境の変化と国民帝国・日本」『ヨーロッパ文化史研究』8号, 2007
- ・「〈思想連鎖〉から見る近代アジア」岡山大学社会文化科学研究科編・刊『東方アジアの文化共生・地域共生研究報告書』, 2007
- ・「明治期日中文化交流史の概況と展望」陶徳民ほか編『近代日中関係人物史研究の新しい地平・関西大学アジア文化交流研究叢刊・第2輯』雄松堂出版, 2008
- ・「東アジアにおける共同体と空間の位相——アジアからの問い返しという課題をめぐる」『環』35号, 2008
- ・「始点としての第一次世界大戦, 真実の権利回復要求」『歴史は生きている』朝日新聞出版, 2008
- ・「満洲国が語りかけるもの」『紅萌』15号, 2009
- ・「有関台湾和日本的海洋性之空間心性與政策的地勢意義」『台湾大学人文社会高等研究院院訊』3巻4期, 2009
- ・「智の都」『東京人』265号, 2009
- ・「『明六雑誌』の思想世界」『明六雑誌』下巻, 岩波書店, 2009
- ・「『近代』の奔流と逆流——六〇年代日本精神誌の一側面」富永茂樹編『転回点を求めて・一九六〇年代の研究』世界思想社, 2009

- ・「指針なき時代における研究の模索」『次世代ワークショップ論文集』2集, 立命館大学コリア研究センター, 2009
- ・「使用上の注意——『明六雑誌』復刻を終えて」『図書』729号, 2009
- ・「国民帝国・日本の展開と学知の位相」『九州史学』152号, 2009
- ・「東アジアにおける人流と思想連鎖」『遼』34号, 2009
- ・「国民帝国日本的異法域統合と差別」『臺灣史研究』16巻2期, 2009
- ・「写真がつなく過去と現在」『秘蔵写真が語る戦争』朝日新聞社, 2009
- ・「近代日本の国家形成と学知の意義」『國學院大學研究開発推進機構紀要』2号, 2010
- ・「出版・検閲の態様とその遷移（金仁洙訳）」『植民地検閲』ハングル版・成均館大学, 2010
- ・「宮崎滔天」和田春樹・山室信一ほか編『東アジア近現代通史・3巻』2010
- ・「第一次世界大戦の衝撃と帝国日本」和田春樹・山室信一ほか編『東アジア近現代通史・3巻』2010
- ・「石橋湛山」和田春樹・山室信一ほか編『東アジア近現代通史・4巻』岩波書店, 2010
- ・Der Erste Weltkrieg und das japanische Empire, *Bochumer Jahrbuch Zur Ostasienforschung*, No. 34, 2010
- ・「熊本とアジア」『公徳』18号, 2010
- ・「余と到——読書をめぐる三と四」『岩波文庫・読書のすすめ』14集, 2010
- ・「日本の非暴力思想の水脈とその展開」『東洋学術研究』164号, 2010
- ・The Source and Development of Japan's Philosophies Non-Violence, *The Journal of Oriental Studies*, No. 20, 2010
- ・「繋ぐものと距てるもの」田中浩編『ナショナリズムとデモクラシー』未来社, 2010
- ・「“多而合一”的秩序原理与亞洲価値論」吳志攀・李玉編『東亜的価値』北京大学出版社, 2010
- ・「「市民」育成へのまなざし」『アステイオン・特集 なぜいま「市民力」か』72号, 2010
- ・「いま日露戦争を知るために——世界的連鎖の視点からのアプローチ」『歴史読本』56巻1号, 2010
- ・Der Erste Weltkrieg und das japanische Empire, *Bochumer Jahrbuch Zur Ostasienforschung*, No. 34, 2010
- ・「アジア主義と日中関係」陶徳民ほか編『東アジアの過去, 現在と未来』丸善出版, 2011
- ・「郷土を世界に拓く——牧口常三郎の空間学的視圈とその現代的意義」『創価教育』4号, 2011
- ・「紙碑として, 里程碑として」『新聞と戦争・下巻』朝日新聞出版, 2011
- ・「通史・新秩序の模索」和田春樹・山室信一ほか編『東アジア近現代通史・5巻』2011
- ・「アジア人の風声」『姫路文学館紀要』14号, 2011
- ・「明治国家に宿命づけられた相反するベクトルの追究」『歴史群像・大日本帝国の興亡1』, 2011
- ・「国民帝国日本における異法域の統合と格差」『人文学報』101号, 2011
- ・「帝国形成における空間認識と学知」『翰林日本学』（翰林大学校日本学研究所）19輯, 2011
- ・「日本が戦い抜いた二つの実戦と三つの外交戦」『歴史群像・大日本帝国の興亡3』2012
- ・「連鎖視点からみる辛亥革命と日本」『経済史研究』（大坂経済大学日本経済史研究所）16号, 2012
- ・「私の図書館巡歴と関西館——史料に導かれた連鎖視点への歩み」『国立国会図書館月報』623号, 2013
- ・L'empire du Japon et choc de la Première Guerre mondiale, *Revue D'histoire*, No. 249, 2013
- ・「対亜洲的思想史探索及其視角」『台湾東亜文明研究学刊』10巻2期, 2013
- ・「「崩憲」への危うい道」『世界』848号, 2013
- ・「（シリーズ総説）世界戦争への道, そして「現代」の胎動」『現代の起点 第一次世界大戦・1巻（世

- 界戦争』岩波書店, 2014
- ・「日本法学, その成果と可能性」『明治学院大学法律科学研究所年報』30号, 2014
 - ・「世界認識の転換と「世界内戦」の到来」『現代の起点 第一次世界大戦・4巻 (遺産)』岩波書店, 2014
 - ・「(シリーズ総括) 世界性・総体性・現代性をめぐって一振り返る明日へ」『現代の起点 第一次世界大戦・4巻 (遺産)』岩波書店, 2014
 - ・「第一次世界大戦の衝撃と科学動員」『學士會会報』907号, 2014
 - ・「現代の起点としての第一次世界大戦」『歴史地理教育』821号, 2014
 - ・「思想連鎖のなかの「人の支配」と立憲主義」『法律時報』1075号, 2014
 - ・「問いへの執着, 醗酵への時間」『図書』787号, 2014
 - ・「橘僕」趙景達・原田敬一ほか編『講座・東アジアの知識人・4巻』有志舎, 2014
 - ・「空間アジアを生み出す力——境界を跨ぐ人々の交流」今西淳子編『アジアの未来へ』渥美国際交流財団, 2014
 - ・「アポリアを問い直す力」徐興慶編『近代東アジアのアポリア』中華民国・臺大出版中心, 2014
 - ・「国民国家と国民帝国への眼差し——東アジア人文・社会科学の課題と方法」徐興慶編『近代東アジアのアポリア』中華民国・臺大出版中心, 2014
 - ・「もうひとつの世界性——第一次世界大戦と非戦思想の連鎖」『思想』1086号, 2014
 - ・「東アジア史における第一次世界大戦——日本からの眼差し」『思想』1086号, 2014
 - ・「安保法制からの旅立ち」『世界』875号, 2015
 - ・「日本とアジア・西洋」黒住真ほか編『日本思想史講座5・方法』ベリカン社, 2015
 - ・「共同研究・研究拠点の活用を」『盛和スカラーズソサイアティ』19号, 2015
 - ・「国民帝国の編成と空間学知の機能——日本の帝国形成をめぐって」宇山智彦編『ユーラシア近代帝国と現代世界』ミネルヴァ書房, 2015
 - ・「積極的平和主義」とは「軍事介入主義」広岩近広編『わたしの〈平和と戦争〉』集英社, 2016
 - ・「戦後が戦前に転じるとき——顧みて明日を考える」一色清ほか著『「戦後80年」はあるのか』集英社, 2016
 - ・「アジアの視点から立憲主義を考える」『住民と自治』637号, 2016
 - ・「아시아의 시점에서 입헌주의를 생각한다」『말과활』11号, 2016
 - ・「未完の「東洋平和論」」李泰鎮・安重根ハルビン学会編『安重根と東洋平和論』日本評論社, 2016
 - ・La Première Guerre mondiale dans l'histoire de l'Asie orientale : un regard japonais, *Ebisu*, No. 53, 2016
 - ・「解説」『石川九揚著作集V 漢字がつくった東アジア 東アジア論』ミネルヴァ書房, 2016
 - ・「만다라 (曼荼羅) 로서의 중국——동북아재단 편」『연동하는 동아시아 문화』역사공간, 2016
 - ・「ナショナリズム——国民と国家はどうなるのか」伊地知紀子・新ヶ江章友編『本当は怖い自民党改憲草案』法律文化社, 2017
 - ・The Philosophy and Possibilities of An Chunggun's Unfinished On Peace in the East, Yi Tae-Jin ed. *Peace in the East : An Chunggun's Vision for Asia in the Age of Japanese Imperialism*, Lexington Books, 2017
 - ・「역사학과 인문・사회과학의 현재, 그리고 기대의 지평으로 =History and Present of Humanities and Social Science, and Toward Horizons of Expectation」『東方學志』178, 2017
 - ・「国民帝国とナショナル・アイデンティティの逆説」川田順造編『ナショナル・アイデンティティを問い直す』山川出版社, 2017

- ・「司馬遼太郎 —— ピアニッシモの声」『遼』66号, 2018
- ・「歴史戦争と歴史和解の間で —— 戦士と調停者の二重性をめぐって」橋本伸也編『紛争化させられる過去』岩波書店, 2018
- ・「民生」「サラリーマン・職業婦人・専業主婦」「地方学」ほか鷺田清一編『大正＝歴史の踊り場とは何か』講談社, 2018
- ・「唱歌と空間心性そして植民地」『唱歌の社会史』メディアアイランド, 2018